



● 発行所
被爆者連絡センター
札幌市白石区平和通
17丁目北6-7

北海道版 北海道ノーマア・ヒバクシャ会館内
TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者連絡センター ホームページ [http:// h-nomore-hibakusha.org](http://h-nomore-hibakusha.org) メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

――再び被爆者をつくらないために――

被爆81年 新しい歴史を刻みたい

北海道追悼会開かれる

原爆死没者北海道追悼会が

8月6日、札幌市のホテルで開かれ、被爆者や遺族、支援者約120人が参加しました。この1年で亡くなった被爆者は6名(セクター把握分)です。

全道の被爆者も87・31歳になりました。セクター代表の宮本須美子さんは「高齢化した被爆者の多くは今も後遺症に苦しんでいる。核兵器のない世界の实

現のために全力を尽くす」と挨拶、道知事のメッセージ（代読）、実行委から原水協三上友衛さんが追悼の辞、勤医労の青年が「明日への誓い」を述べました。ついで佐藤由緒さんのフルート演奏と参列者の献花献水、北海道合唱団の合唱があり、新実行委員長山本光一さんが閉会挨拶を述べ、第一部を終えました。

続く第二部「被爆者の思いを受け継ぐつどい」では、上山睦恵さんがはじめて大勢の人たちの

前で自分の被爆体験を語りました（北海道新聞 8 月 6 日参照）。朗読劇に取り組んでいる札幌南高（定）の生徒、札幌の祖父母の元に来て追悼会に出ている福島の高校生も被爆者の思いを受け継いでいく決意を語りました。

寺井幸子さんも初めて語る

約200人が来場しました。

被爆者は自らの被爆は絶対にダ爆二世は「

被爆者は

自らの被爆体験を語り「核兵器は絶対にダメ」と結びました。被爆二世は「親の被爆体験と二世としての思い」を語りました。最

室蘭市にお住いの被爆者寺井幸子さん（91歳）も、今年自らの被爆体験をはじめて公にしました（北海道新聞室蘭版 8月6日）。つらい過去を思い出したくもなかったが、被爆者が高齢化し、戦争を知らない世代ばかりになることはそれ以上に恐ろしい、と語っています。今年も追悼会に参加されました。

後は 元小学校教師、現在大学でも教えている佐藤広也さん。絵本『北の里から平和の祈り』『あいたかったよ』を紙芝居風に紹介。平和は壊れやすい、守っていくことが大切と強く感じさせるお話でした。なお会場には「原爆と人間」パネル、原爆の惨状を物語る遺品、さまざまな書籍が展示されました。

なお全国の平和祈念式典には
広島に金子廣子さん、長崎に宮
本須美子さんが参列しました。

た。
被爆者 81
年、被爆者

被爆の証言と原爆展

通算12回目を迎えた「被爆の証言と原爆展」。今年は7月下旬に会場がとれず、お盆にさしか

新しい歴史
を刻みたい
ものです。



会場には札幌東陵高校生徒の作品も